

神奈川県地方創生推進会議 総合戦略推進評価部会（基本目標2、4）議事録

名 称：平成30年度 神奈川県地方創生推進会議 総合戦略推進評価部会（基本目標2、4）

開催日時：平成30年8月7日（火曜日） 9時00分から11時00分まで

開催場所：県庁 新庁舎5階 第5B会議室

出席者：◎牛山久仁彦、柏木京子、田中徳一郎、ジギャン・クマル・タパ、関ふ佐子、立山昭憲、平位武、室田昌子、山崎哲雄、林田真秀〔計11名〕（順不同）（◎は部会長）

次回開催予定日：未定

問い合わせ先：政策局自治振興部地域政策課地域活性化グループ

電 話 (045) 210-3275（直通）

ファクシミリ (045) 210-8837

経過：

1 開会

- 高木地域政策課副課長： ただ今より、平成30年度神奈川県地方創生推進会議 総合戦略推進評価部会（基本目標2、4）を開催させていただきます。私は地域政策課副課長の高木でございます。どうぞよろしくお願いたします。本日はご多忙のところ、ご出席いただきましてありがとうございます。当部会は原則公開としてございますが、本日は傍聴の方はいらっしゃいません。当推進会議につきましては、昨年度までは県総合政策課で執り行っておりましたが、平成30年度、この4月から事務の移管がございまして、私ども地域政策課が事務局を行うこととなりましたので引き続きどうぞよろしくお願いたします。

（高木地域政策課副課長から配布資料の確認）

- 高木地域政策課副課長： 続きまして、自治振興部長の尾塚よりご挨拶させていただきます。
- 尾塚自治振興部長： おはようございます。私、神奈川県自治振興部長の尾塚と申します。本日はよろしくお願いたします。本日はここ数日に無い涼しさとはいえ、お足元の悪い中、ご多忙の中、お越しいただきまして誠にありがとうございます。私どもが進めております地方創生の取組みでございますが、今年で5年計画の4年目となります。本日はその5年計画の3年目のちょうど折り返しにあたる2017年度の本県の地方創生の取組みにつきまして、評価報告書（案）という形で取り纏めさせていただいております。こちらの中身につきまして忌憚のないご意見をいただければと思っております。本日はこの評価報告書の中の「基本目標2 神奈川への新しいひとの流れをつくる」と「基本目標4 活力と魅力あふれるまちづくりを進める」の2つの基本目標についてご議論いただきたいと思っております。昨年度の評価報告書をまとめさせていただいた際に、委員のみなさま方から、様々なご意見を頂戴したところでございます。その中で、総合戦略の取組みに大きな遅れはないものの、その進展のペースが緩やかになっている、あるいは、これまでのKPIの達成状況や取組みの成果を踏まえて目標値の見直しや目標項目の検証をした上で、引き続きしっかりと取り組むことが必要であるといったご意見をいただいたところでございます。私どもといたしましては、委員のみなさま方のご意見につきまして、最大限受け止めさせていただきまして、昨年度末、30年3月に主な取組みの追加や数値目標・KPIの目標値の見直し、KPIの追加などをさせていただいたところでございます。そういった点も含めまして、本日は評価報告書（案）についてご議論いただき、最終的には11月ごろを目指しておりますが、全体として評価を固めていきたいと考えております。それでは、本日はどうぞよろしくお願いたします。
- 高木地域政策課副課長： 次に人事異動などにより変更のあった委員の方々のご紹介と総合戦略の進行

管理について、地域政策課長の有泉からご説明いたします。

- **有泉地域政策課長：** 地域政策課長の有泉でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。はじめに、今年度、人事異動等に伴いまして変更のあった委員の方々についてご紹介させていただきます。「資料1-1」の裏面をご覧ください。部会 基本目標2、4でございます。
 - ・(公社)日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会会長 田中委員に新たにご就任いただいております。どうぞよろしくお願ひいたします。続きまして「資料1-2」をご覧ください。

(有泉地域政策課長から「資料1-2」総合戦略策定後の進行管理について説明)

2 議事

議題1 「神奈川県まち・ひと・しごと創生総合戦略 2017年度評価報告書(案)」について

- **牛山部会長：** それでは、議事に入ります。昨年度、平成29年8月に評価部会を開催し、10月の推進会議において、2016年度の取組みについて評価を確定しました。また、よりの確な評価を行い、地方創生の取組みをさらに効果的に進めていくため、また、県民の皆様に進捗状況をよりわかりやすく示すためにも、必要に応じて指標を追加する対応の必要があるとし、平成30年1月の推進会議において総合戦略へKPI等を追加し、平成30年3月に改訂を行いました。今年度も、総合戦略の進行管理、「地方創生推進交付金」及び「地方創生拠点整備交付金」事業の評価にあたり、実施した施策・事業やKPIを踏まえた一次評価を県からお示しいただくことになっております。部会の進め方については、「資料2」をご覧ください。「資料2」では、はじめに、各資料の概要について記載しております。次に、本部会において議論していただきたい事項について記載しております。「資料2」中ほどの「部会において議論していただきたい事項」をご覧ください。まず、「1 総合戦略」について「(1) 施策推進上の課題や政策運営の改善を図るべき事項」でございますが、総合戦略については、具体的な取組み(小柱)ごとに、今後、施策を推進する上で対応が求められる課題や施策運営の改善点等についてご意見をいただきます。次に裏面「(2) 基本目標ごとの評価」をご覧ください。「資料3」の評価報告書(案)を元に、委員の皆様からいただいた課題や改善点についてご意見をいただいた上で、基本目標2及び4のそれぞれに対して、小柱ごとの県の一次評価を踏まえながら、基本目標全体に対する施策の進捗状況を総合的に評価し、二次評価を検討していただきます。さらに「2 地方創生推進交付金及び地方創生拠点整備交付金を活用した事業の評価」として、国の交付金事業については、第三者による評価を行うよう国から求められておりますので、「資料4-1」「資料4-2」を元に、交付金対象事業の有効性について検討していただきます。ではまず、事務局より、基本目標2についてご説明及び報告いただきます。

(有泉地域政策課副課長から「資料3」、「資料4-1」、「資料4-2」の基本目標2部分について説明)

- **牛山部会長：** それでは、ご説明をいただきましたが、これを踏まえまして基本目標2についてご議論をいただければと思います。恐縮ですが多くの方にご意見をいただければと思います。
- **室田委員：** いろいろ盛りだくさんな事業が触れられていて、大変充実しているなと思いました。気になったところといたしましては、地方創生はやはりボトムアップというか各地域がどのように考えているかが重要で、トップダウンも必要な部分はありますが、これだけたくさん事業が出てきた場合に、どのように市町村の受け止め方を把握し、市町村と情報を共有して、市町村から上がっているニーズや、やりたいことをどのように吸い上げてまとめられているのかが気になりました。宮ヶ瀬のような具体的な記載が

あるように、各地域でやりたい事業があると思うのですが、どのような経緯で挙げられているのかを分かりやすく記載して欲しいです。ボトムアップで挙げた事業を県で検討をし、その中でより良い地方創生として、県全体として見て有用なものを公平な目で見て評価をして、それを育てていくというプロセスが非常に重要だと思いました。また、たくさんの事業をリストアップするだけでなくある程度メリハリをつけ県全体としての重要性を検討して地方創生事業をやるべきだと思います。あれもやれこれもやれとなると、どっちつかずに中途半端になると思います。

- **有泉地域政策課長：** 市町村との関係は非常に重要でありまして、県が何か号令をかけて市町村がついていきたいと思いますというようなやり方ではないと考えてございます。一つの例として、県西地域活性化プロジェクトがございます。こちらは県西地域の10の市町がございます。こちらは未病を切り口に地域の活性化に取り組むもうとそれぞれ各市町が素晴らしい地域資源をお持ちですので、そういうものを掘り起こし、磨き上げて、地域全体で活性化していこうと、平成26年からスタートいたしました。その際は県が取りまとめ役となりましたが、地域の皆さんからいろんなアイデアを出していただき、地域活性化プロジェクトとしてスタートいたしました。そのあと、国の地方創生の交付金制度ができたのですが、その際にも地域再生計画を作る際にも県が音頭は取りましたけど、それぞれ地域の計画を作っていただきながら歩んでおりますので、そういった意味では県としても市町村との連携について非常に力を入れております。
- **室田委員：** 市町村からのボトムアップも重要ですし、県としての考え方も重要かと思えます。
- **関委員：** 全体についてですが、P71で説明されましたが、総合戦略の期間5年のうち3年が経過しまして、振り返りが重要かと思えますが、もう少し、これまでの評価「順調に進んでいます」などの評価をこれまで行ってきたのですが、この視点をもう少し意識した評価をしつつ、その後2年間の評価についても全体的に行っていくことが必要かと思えます。最初のころは数字もわからないし、評価もできないかと思えますが、そろそろ評価ができる年になったので、将来的に見直すというのであれば、そういう視点がもうちょっとあればと思います。2年間実施して、こうだったという一つの総括、評価の仕方が行えればと思います。
- **有泉地域政策課長：** 最終的にはP11に推進会議に全体として要件とかを大まかに記載する部分がございます。こういったことについては今いただいた趣旨の発言を文言として入れていきたいと思えます。
- **関委員：** 個々の項目において、順当かどうか、数値的にどうかはありますが、深いところは理解できないところもありますが、そういう視点からそれぞれ説明くださると、全体的に見えやすいかなと思えます。
- **平位委員：** だんだん良くなっているのかなと思えます。評価は昨年度も実施し、そして来年度も実施するわけです。時系列でよくなったり悪くなったりとある程度分かれば、例えば星2つの三浦半島の事業がありますが、昨年も星2つだったと思えますが、時系列的に上がっているのか下がっているのか横ばいなのかそのようなものがあると分かりやすいと思えます。そういうものがあれば、全体的に書くのもいいのですが、メモみたいなものがあればいいと思えます。
- **田中委員：** 室田委員、関委員の質問に関連したのですが、室田委員がボトムアップ、具体的に言う市町村のみなさまからの声はどうなっているかという、委員がどこまで意識を持たれたかは分かりませんが、黒岩県政が進める特性が少々強すぎるのかなと思えます。マグネットとかマグカルとか、そのようなものがふんだんに使われているのはいいのですが、果たしてそれが普遍的に見た場合にどういう捉え方をされるのか、もう少し第三者的な見地から見ても、平たく見えるもののほうがよろしいかと思えます。

一方で関委員もいろいろご意見をされていた中で、目標の設定ですから、進捗率は達成率を見ればわかります。100%達成なら100%だ、素晴らしいですねということなのでしょうけども、ここにも普遍性が必要でありまして、例えばP35の外国人観光客の誘致について、ここでKPIが2つ設定されています。「海外のメディア」や旅行会社の招請社数と「外国人向け動画コンテンツの配信等の回数」が設定されていますが、これが果たして多いのか少ないのか、ここにいる我々はそこまでわからないと思います。2017年度の実績値56回、2019年度の目標が20回ですから都合280%を達成しているのですこれはすごいなと思うかもしれませんが、これは自主目標的な側面が強すぎるので、これが本当によくやっているのかやっていないのか、平位委員からも各年度で例えばどうなっているか横の時間軸を見たいと、他の地域と比べた部分でも必要かと思えますけれど、ですからこういう自主目標的なKPIを設定する必要もあるのですが、もうちょっと第三者目線で見たとときに、普遍的に分かるもの、例えば他のページでは観光客数など、これは至極当然、普遍的な数字だと思います。この辺りの部分をぜひさらにブラッシュアップしていただくと各委員の皆さまがおっしゃっていたことが腑に落ちて皆さまに伝わるのではと思います。

○ **牛山部会長**： ありがとうございます。では事務局より併せてお答えください。

○ **有泉地域政策課長**： まず平位委員よりご指摘いただいた点につきましては、評価などについて時系列でまとめた一覧表は作成しておりますので、それをお示しさせていただきます。また、田中委員よりいただいた、マグネットや未病といった言葉など、黒岩県政のカラーが強いのではないかとのご指摘ですが、言葉としては出ておりますが、やはり目指すべきところについて、例えば超高齢社会に向かっては未病という言葉は使わずとも、健康寿命を延ばしていくなど、方向性は市町村と同じ方向を向かっております。表現として、県としては「未病」という言葉を使っておりますが、その点をご理解を頂ければと思います。また、目標の立て方については、委員のご指摘のとおりでございます、例えば国全体の目標値があるものや、入込観光客数などは分かりやすい目標を立てやすい一方で、ものによってはKPIをどのように設定するか、それぞれの原局でも苦勞をしている点でございます、セミナーの実施回数など、自分たちの事業の実施回数といったKPIを設定している状況でございます。今後原局とも相談しながら、どのような設定が良いか考えて参ります。

○ **関委員**： 数字にどれだけ信憑性があるかについては、昨年も意見として出ていたと思います。そういう意味で、最初の年や去年は数字の意味が分からなくても、二年程度の傾向が分かれば、そこから数字の多寡など、わかってくると思います。

○ **立山委員**： 今の内容に関連いたしますが、35ページの「(3) 観光プロモーションの推進 ①外国人観光客の誘致促進」についてのKPI達成率は県が実施した取組みに対する達成率になっております。県としては順調に進んでいると評価頂いておりますが、一方で、30ページの数値目標である外国人観光客の訪問者数の暦年の実績を見ると、2019年の目標値の達成は難しい状況にあることが見て取れると思います。359万人という目標が適正であるか、どのように設定されたかは分かりませんが、35ページの評価を一般の方が見た場合にどのように感じるのか不安があります。どのような表現にするか、県として取り組んでいる施策については順調に進んでいますが、最終的な目標値については一定の見解を示すなどすれば、適正な評価になると思います。

○ **牛山部会長**： ありがとうございます。確かにご指摘のとおりかと思えます。そのあたりについてはこの小柱は順調だけでも、実際の目標が達成できるのかという点を、部会の意見として二次評価に書きこんでいくことになるかと思えます。

○ **有泉地域政策課長**： 数値目標は5年間の目標でございますが、それぞれの小柱ごとのKPIというのは

その年で目標を達成したのかを見る指標でございます。いくつかの小柱が合わさって、最終的に冒頭の目標を達成できるのかに繋がっていくわけですが、それぞれの部分で見ると、数値目標と小柱で設定したKPIが必ずしも結びついていないこともあります。この点は、今後どのような評価ができるのか検討させていただきます。

- **牛山部会長**： 定性的な評価、目標値を達成したかという評価することは当然かと思いますが、例えばあとわずかで達成できるものもある一方で、33ページのZEHの達成率は3割程度で低い状況です。なぜ低いのかという理由など、二次評価をする上で、同じ概ね順調という評価でもかなり力をいれなければならないというものもあります。ZEHについて、所管部署はどのような分析をされているのでしょうか。
- **有泉地域政策課長**： この点に関しては、33ページの今後の課題と対応方法に記載させていただいておりますが、特にZEHについては認知度が非常にまだまだ低い状況にあるためと考えております。普及啓発に力を入れていくしかないと思いますが、この点は課題になっておりまして、30年度についてもイベント等に力を入れていくと聞いております。
- **牛山部会長**： ZEBの方は一定程度普及しているということですか。
- **有泉地域政策課長**： 企業ベースですと、このような分野に関心のある企業も多くありますが、一般家庭についてはまだまだその段階には至っていないということかと思えます。ようやく太陽光エネルギーなどの普及は進んできましたが、その先をいくZEHについては普及が進んでいない状況です。
- **牛山部会長**： 3割程度の現状において、普及促進をすれば何とかなるのでしょうか。これまでもできなかったことが急にできるようになるとも考えづらいですし、目標値が高すぎるのかもしれない。
- **室田委員**： 今の件で、目標値を時系列でみるというお話がありましたけども、日本全体でどのような傾向にあるのかは重要だと思います。ZEHについては、企業にお聞きしますと、苦戦しているというお話をお聞きします。これに限らず、観光の入込観光客数も、日本全体の動向は分かると思いますので、そのあたりも入れていただければと思います。
- **有泉地域政策課長**： ZEHについては、国が目標を掲げておりまして、2020年までに新築の戸建ての住宅の過半数をZEHとすることを目指しております。県内では年間新築戸数が三万件ですので、その半数の一万五千件にプラスアルファして二万件という目標を設定したということでございます。国全体としての普及啓発も重要だと思いますし、今のところ、高い目標だったかと思えます。
- **牛山部会長**： 目標値が2017年に約五千件で、あと2年で4倍にするという数字は高い目標かと思えます。
- **林田委員**： 以前より話題に出ていたと思いますが、KGIとKPIの関係が分かりにくいと思います。5年間あるために、このあたりは変えられないかもしれませんが、分かりにくいという印象はあります。例えば、観光客数が増えることが、三浦半島地域の社会増減数にどう影響するのかなどの縦のつながりや、未病、観光といった取組みが、県西地域の社会増減数にどの程度影響を与えているのかが分かりにくいと思います。また、基本目標1にも関係しておりますが、今回上げているKPIはもともと、観光業、運輸業、宿泊業、サービス業などの産業の効果を測る項目が多いと思いますが、それ以外の産業も含め、三浦半島地域や県西地域の産業に影響を与えるものに本来何があって、どれが社会増減数に関連するなどの関係があれば分かりやすいと思います。それと基本目標1と基本目標2との関係や基本目標2と基本目標4との

関係などの目標間の横のつながりなども検討が必要だと思います。この5年間だけではなくて、次の話になるのかもしれませんが。

- **牛山部会長**： 横串を刺すというような視点からの二次評価への言及というものもありうるということですが、事務局いかがでしょうか。
- **有泉地域政策課長**： 私自身個人的にはそこまで考えておりませんでした。今、委員仰るとおり、各目標ごとに横串を刺すという視点は非常に重要と思いますので、研究させていただければと思います。
- **中谷政策部長**： 国でEBPM、根拠に基づく政策立案と言われているのですが、一つ一つの目標、アウトカム・アウトプットの目標が最終アウトカムにどのようにつながるのかという、目標同士のつながりが問われる時代になっており、国でも研究を進めておりまして、本県でも同じように研究を進めています。しかし、現実的にアウトカム・アウトプットの関係が解析できるかという、なかなか難しく、理想的には中間アウトカムといったものの寄せ集めが最終アウトカムにつながるものが理想であり、一番分かりやすいのですが、そこまで解析できるかという、非常に現実的に難しい項目もあります。ただ、やはり分かりやすさや説得力からすると、そういった形で解析できることが一番望ましいと思われるので、国と一緒に研究を進めているところでございます。
- **タパ委員**： 35ページの「(3) 観光プロモーションの推進 ①外国人観光客の誘致促進」のところですが、こちらはKPI 2つとも達成していますので、特に課題はないのかなと思いますが、「今後の課題と対応方向」のところ、「日本在住の外国人を活用する」と記載がありますけれども、もしこのことが課題で、もっと情報を発信したいということでしたら、例えば日本在住の外国人は全体では270万人ほどおりますし、神奈川県内でも20万人ぐらいはおりますので、そういう県内在住の外国人ということよりもっと幅広くアピールしていくほうが良いのではないかと思います。留学生は1万人ぐらいしかいないので、限定していく必要はないのかなと思います。例えば色々な国のコミュニティがありますし、県内に住んでいる人たちで、自分が住んでいる県のことをもっと本気でアピールしたいという人もたくさんいるでしょうから、ここはもう少し間口を広げてもいいのかなと思います。
- **有泉地域政策課長**： 県でもいろいろな部署でいろいろな団体とお付き合いがございます。そういった中で外国人の方も多くいらっしゃいます。また、政府機関や外国の大使館ともお付き合いがございますので、そういったあらゆるチャンネルを積極的に使いながら、いろいろな発信をしていきたいと思っています。
- **山崎委員**： 38ページ「②三浦半島魅力最大化プロジェクトの推進」と39ページ「③かながわシープロジェクトの推進」についてですが、例えば38ページの「2017年度の主な取組みと成果」の一番下の「漁港等の多目的利用の促進」について、海関連のイベントを実施と記載があります。このことは海洋ツーリズムでも別に取り組んでおりますが、こういったことの評価が、この2つのKPIで評価できるのかということに疑問があります。また、39ページでは「今後の課題と対応方向」の中に、シーレーン、海をつなぐ海洋ツーリズムの記載がありますし、また、マリン人口を増やし、愛好家を増やすためにチャーター・ボートですとか、いろいろとクルージングの取組みを行っているのですが、こういったものが、ここで設定されている2つのKPIで評価できるのか疑問があります。今後、残り2年間の中で、少し評価の内容を変えていく必要があるかと思いますが、いかがでしょうか。
- **有泉地域政策課長**： 38ページの入込観光客数と例えばシープロジェクトなどのいろいろなイベントが直接リンクしているかという、正直なところリンクしていないところがございます。例えば、このKPIはこういった形で置いておいて、どういう見せ方が良いかは分かりませんが、これに対する補助

的なもうひとつ下のランクのKPI的なものをお示しすることで、それぞれの事業の進捗状況がどうなっているかということをお見せできるかどうか、検討してまいりたいと思います。

○ **山崎委員：** 39ページの「今後の課題と対応方向」の中に、まさに海洋ツーリズム関係の漁港の利用や海の駅といったものを非常に積極的に推進していこうということですので、ここをうまく評価していただいて、現に小田原港も漁港ですが、試験的に取り組んでいただいております、これまで民間利用ができなかったようなところをうまく活用していこうという方向にありますので、取組みを進めることができればと思います。

○ **牛山部会長：** ありがとうございます。まだまだお話は尽きないかとは思いますが、そろそろ予定しておりました時間になりました。まだもうひとつの基本目標がございましたので、このあたりでと思います。一つは二次評価を確定する必要があります。基本目標2について見てみますと、「順調」と「概ね順調」の小柱が5個ずつありまして、1小柱について「やや遅れ」となっております。2015年度と2016年度の評価を見てみますと、だいたい「順調」と「概ね順調」が同じような割合で、一昨年「やや遅れ」が一つありましたが、去年は「やや遅れ」はありませんでした。総合評価はいずれも「概ね順調」ということで二次評価をしてきているのですが、今回につきましても、小柱の評価状況からいきますと「概ね順調」ということになるかと思いますが、今回の二次評価は「概ね順調」ということでよろしいでしょうか。

○ **全委員：** 異議なし。

○ **牛山部会長：** ただ、みなさまから色々なご意見をいただきまして、小柱ごとにもいろいろとご意見をいただいたのですが、それに付随して二次評価の中に盛り込んでいき、注意点・留意点なども出していただきましたので、それらを二次評価の中で言及しながらまとめていくということによろしいでしょうか。

○ **全委員：** 異議なし。

○ **牛山部会長：** それから、交付金事業につきまして、県の方で出した一次評価についてですが、これについてご異議がある方はいらっしゃいますでしょうか。無いようでしたら、この部会としては県の一次評価に同じということになるかと思いますがよろしいでしょうか。

○ **全委員：** 異議なし。

○ **牛山部会長：** ありがとうございます。それでは基本目標2につきましては、以上とさせていただきます。なお、ご意見をいただいたことに関して評価報告書へ記載する文言等については、みなさまのご意見を踏まえて私と事務局で調整させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○ **全委員：** 異議なし。

○ **牛山部会長：** ありがとうございます。それでは基本目標4について、事務局よりご説明をお願いしたいと思います。

(有泉地域政策課長から資料3、資料4-1、資料4-2の基本目標4部分について説明)

○ **牛山部会長：** それでは、ご説明をいただきましたが、これを踏まえまして基本目標4についてご議論をいただければと思います。先ほどと同様にご意見をいただければと思います。

- **タパ委員**： 65ページ「(2) ①人口減少社会に対応したまちづくりの推進」の説明ですが、KPIの3項目中85%以上が2つあるので「概ね順調」との説明でしたが、68ページ「(3) ①交流と連携を支える道路網の整備・活用と鉄道網の整備など」のKPIは2つとも85%以上を超えています。それなのに「やや遅れている」と記載していることに違和感があります。
- **牛山部会長**： 補足を入れたらいかがですか。
- **有泉地域政策課長**： 考え方といたしまして、65ページについては達成率100%のKPIが1つあるので、「概ね順調」と記載しましたが、もう一つの方は2つとも100%に達していないので、「やや遅れている」という記載です。
- **平位委員**： タパ委員のご指摘どおり、普通に見るとどっちなのだろうと思います。3項目のうち、1/3しか達成していなかったら、65ページ「(2) ①人口減少社会に対応したまちづくりの推進」については、「概ね順調」としてよいのかと。これは県の1次評価なので、第2次評価のところで「魅力あるまちづくり・空き家対策」とかについては「概ね順調」という評価だけでも、「もう少し努力が必要」とか書くのでしょうか。
- **林田委員**： タパ委員が仰るとおり、少し違和感はあります。部会長や平井委員が仰った形で補足を入れたほうがよいと思います。
- **牛山部会長**： これは県による1次評価となっているので、県はそう考えているということなんです、そのあたりのところで空き家対策を少ししっかりとやるべきじゃないかと評価の方に書くことでよいのではないのでしょうか。
- **林田委員**： KPI「空家等対策計画を策定した市町村数（累計）」は昨年度から目標値を上方修正されていますか。19年度目標が13市町村だったものが18市町村になっていて、17年度も上方修正されているようです。上方修正した結果で達成率が低くなっていますが、着実に伸長しているので、それを考慮して達成率が低くても順調とされているのでしょうか。
- **有泉地域政策課長**： 上方修正しています。
- **柏木委員**： 66ページのところで先ほど基本目標2の33ページでも出てきましたが、ZEB・ZEHの認知度の向上が課題と記載があります。私も3年前に自宅を新築しましたが、その時にこのような話は工務店からはありませんでした。やはりZEHについては大きな企業やゼネコンには知られていると思いますが、戸建てを立てる工務店には知られていないと思うので、どうやったら県の情報が得られるのか、普及啓発を進めるべきだと思います。
- **有泉地域政策課長**： 普及啓発については工務店やハウスメーカーの協力なしには普及は進まない、平成30年度の取組みですが、県内のハウスメーカーと一緒に、例えば住宅展示場などを通じて一般の方に実際見てもらうような取組みを行っています。
- **立山委員**： 本論から少しずれますが、58ページの数値目標にある「通勤・通学・買い物など日常生活のための交通の便がよいこと」に関する県民ニーズ調査の満足度が昨年度から今年度を比べると下がっています。目標値に対してはそこまでギャップがないので、政策によっては目標値に届く可能性は十分ある

と思うのですが、同じく県民ニーズ調査における「神奈川県に住みたい」と思う人の割合も、昨年度から今年度を比べると下がっています。この2つについては私どもの立場上、神奈川県で仕事をさせていただいていますので、非常に気になる指標ではあるのですが、これはこういったアンケートを取られているのか、また小柱も政策を打てば上がる可能性もあるのかなと思うのですが、政策としては支援を受けられにくいのかなと感じています。そういった意味でももう少し政策として今後の課題のようなところで、もう少し幅広く考えるものはないのかなと感じたところです。特に68ページ「(3)①交流と連携を支える道路網の整備・活用と鉄道網の整備など」の部分については、取り組みの成果・今後の課題ですが、例えば鉄道の延伸や道路の整備はもちろんですが、踏切の除却や道路と鉄道の交差を除却するなど、なかなか一朝一夕では決めきれないと思いますが、そのような取り組みについても少し掲げられる可能性の余地はないのかなと思います。もう1つ、58ページの数値目標のマイME-BYOカルテについてもかなり目標が高くなっています。そのあたりはどこをどう政策を打たれるのか、そこらへんが分かりにくいかなと思いました。

- **牛山部会長：** マイME-BYOカルテについては数値が少しずつ上がっていますが、かなり高い目標で、達成できるのかなというのはやはり下の2つの数値が非常に厳しい、下がっているということで、理由などを知りたいところではありますが、ただ、これは県民意識なので、なぜかというとな難しいのですが。
- **有泉地域政策課長：** 県民ニーズ調査の満足度については、難しい側面がありまして、毎年調査を受ける方も異なります。例えば、混んでいる電車で通勤されている方は満足度が低いなど、その人の生活を反映するものです。ただ、一つの指標としては県もこういう調査を基にいろいろな施策をしている状況です。マイME-BYOカルテについては非常に高い目標を設定しておりまして、今年度末には50万人という目標を立てております。これまでは一般的な普及啓発に取り組んでおりましたが、今後は企業や団体など組織単位でカルテに登録していただくような取組みを進めるということを原局から聞いております。
- **中谷政策部長：** 県民ニーズ調査について補足させていただきますと、毎年県で実施している調査で、県内在住の3,000人の方を無作為に抽出して、地域や年代、人口の状況に応じて調査しているものです。したがって、回答者に偏りはないようにしております。また、マイME-BYOカルテの目標は一般的にみて非常に高い目標であると思います。タブレットやスマートフォンには、万歩計アプリなど、標準搭載されているアプリがありますが、当初の作成時はそのような形で組み込んで普及を促すことも想定しておりました。これにより、普及が大幅に進むことを見込んでおりましたが、現在、このような標準搭載されているアプリと必ずしもリンクできていない状況です。ですが、現時点で5万件の目標は達成できておりますし、必ずしも50万件という目標を達成できていないかということ、まさに今年度次第でありまして、様々な業界への働きかけに加え、県庁内でもタスクフォースを設けて実現に向かって努力をしております。
- **牛山部会長：** ありがとうございます。アンケートで言いますと、「神奈川県に住みたいと思う人の割合」についてはもう少し長く見ないと分からないと思いますが、大体7割程度の方が神奈川県に住みたいと思っていただいている、これをもう少し高めようとしている状況かと思えます。「通勤・通学・買い物など日常生活のための交通の便がよいこと」に関する満足度については、これまで上昇傾向にあったにもかかわらず、なぜ昨年度は満足度が下がっているのか、なぜ50%付近で変動しているのか、データはありますか。
- **中谷政策部長：** 年によって多少のずれはありますが、県に在住している方の約7割が住みたいと思っただけという傾向が読み取れる結果にはなっております。県としては、ここをもう少し上げたいという当初の目標があったわけですが、現在1点反省点がございまして。目標の立て方ですが、当時は県の施策をすれば実現できるような、アウトプット目標からアウトカム目標にすべきではないかという議論が

ありまして、県民ニーズ調査を取り入れましたが、ここにどの程度県の施策が影響するのか、現実的に見て、民間の取組みなど、県の施策がすべてではありませんから、一つの指標としては望ましいですが、数値目標としてとらえるといかがなものかという反省材料がありまして、今後県の総合計画を策定する際に、県のニーズ調査が相応しいのかも含めて検討しているところでございます。

- **室田委員：** 県民ニーズ調査ですが、一般的には例えば、年代別などでクロス集計を行うと思いますが、そのような分析はされていますか。
- **中谷政策部長：** 年代別、地域別などでクロス分析はしております。
- **室田委員：** その結果を見ると、満足度の低い人や高い人、住み続けたい人、住み続けたくない人でのような特性の違いがあるのが鮮明に見えてくると思いますので、その辺を分析し、その結果をこの会議でできれば出していただきたいと思います。目標のグラフと表だけ見ても、よく分かりません。また、66ページの「②個性豊かなまちづくりの推進」ですが、「個性豊かな」という単語は地域ごとにそれぞれ個性が違うという意味かと思いますが、これを3つのKPIで個性豊かであるかを検証しているように見えます。地域らしさを多様に捉えるような姿勢を示して、これを表現した評価報告書にすべきかと思います。現状では、市町村側に立つと、この3項目のKPIでは取組みが適正に評価されないと感じるかもしれません。このあたりを検討すべきと強く思います。
- **牛山部会長：** KPIの見直しという意味ですか。
- **室田委員：** 個性豊かなという項目に対して、この3つのKPIだけを並べてよいのかということでございます。地域で個性は違っているはずで、その地域の資源を生かして、何らかの取り組みをしたいというものがあると思います。以前にも申し上げましたが、広告景観形成地区の箇所数のKPIについて、最終目標値が2地区で2017年目標値が1地区しかないものをKPIとして取り上げる意味があるのかどうかということをおし上げております。もう少し多くの地域が関係し、目標として持っている事項を評価としてとりあげていただければいいと思います。
- **牛山部会長：** 事務局は何かございますか。
- **尾埜自治振興部長：** 個性豊かなまちづくりについて、室田委員からご意見をいただきましたが、それぞれの地域で何を地域の特性として捉えていくかということが、それぞれ地域ごとのKPIになってしまうということも考えられます。それが県全体としてのKPIで測るときに、何をもち、しかも県が実施している施策を測るKPIとして何が現実的に相応しいのかということについては、非常に難しい宿題をいただいたと思っております。この点については、今後、研究させていただきたいと思います。
- **牛山部会長：** 県の施策について評価を行っていますので、それぞれ市町村が取り組んでいる個性豊かなまちづくりの評価にはなかなかならないので、このような形になっているとは思いますが、ただ、再三前からKPIの見直しと言いますか、実際には比較もありますので、KPIを加えるという形でこれまでできていますが、次の年度の評価等に向けてどうするかということは、また課題になるかと思っておりますので、ご意見として伺っておきたいと思っております。そのほか、いかがでしょうか。
- **林田委員：** 基本目標4は、非常に主観的なところも多く、「活力と魅力あふれるまちづくりを進める」という目標自体が定量化しにくい部分が多々あるかと思っております。KPIとして、「(1)健康長寿のまちづくり」に関しては、非常にKPIの数多くて、(2)、(3)となるとガクッと減ってしまうという

のは、先ほどのお話につながるのかもしれませんが、県として（２）の「持続可能な魅力あるまちづくり」というものがどのようなまちを想定しているのか、基本目標４「活力と魅力あふれるまちづくり」というものがどのようなまちを考えてなのか、というところは、各地域に任せるだけではなくて、県としては各地域の方とお話をしながら、こういうものが理想像ではないかといったものを描いていただく必要があるのではないかと思います。具体的に「個性豊かなまちづくり」にはどんなものがあるのかなど、一方的には決めつけられないとは思いますが、地域の方や各市町村との交流の中や議論の中で出てくるのだと思います。そこに県として、もう少し取り組んでいただく必要があるということと、県としてもどんな「まち」を理想に描くかということは、あっても良いのかと思います。ゴールのようなものを置いた上であれば、具体的なKPIが見つけやすくなるかと思えます。未病のKPIの数に比べると、まちづくりのKPIがガクッと減ってしまうのは、そのような理由もあるのかなと思いました。

○ **牛山部会長：** 委員ご指摘の点と、県の事業を評価するという部分もあるので、どうしてもその点で限られてくるということはあると思いますが、事務局いかがでしょうか。

○ **尾谷自治振興部長：** 確かに、未病関連の事業は県が力を入れて取り組んでいるところということもあり、それを測る指標が結果として立てやすいということもありまして、KPIの数の多さになってきているのかと思います。県として、「持続可能な魅力あるまちづくり」であるとか、あるいはそうしたもののの中で「個性豊かなまちづくり」というものが、いったい県としてどういったことを考えてこのような施策・目標を立てているのかといったところについては、委員ご指摘のとおりでして、我々県としてはこういったところを目指している、というものがないと、個々の施策をなんとなくまとめているだけとなってしまうがちですので、そういった視点でどういったものが考えられるのか、あるいは、そもそもどういったものを県として目指すのかということは県として考えていかなければならないというところでございます。先ほど申し忘れましたけれども、66ページのKPIの「広告景観形成地区の箇所数」については、以前にもご指摘いただいたということですので、そこについては、原局に改めて確認させていただきたいと思えます。

○ **牛山部会長：** ありがとうございます。だいたい予定していたお時間が来ておりますが、何かその他にございますでしょうか。この基本目標４については、6つの小柱がございまして、「概ね順調」が5つ、「やや遅れ」が1つということでございまして、昨年、一昨年は「順調」が相当数ある中で、今回は「順調」がなく、そういう意味では少し進捗具合が下がってきているとの評価もできますが、ただ、全体としては8割程度が一次評価で「概ね順調」となっております。二次評価としては過去の例になりますと「概ね順調」でよろしいかと思えますが、よろしいでしょうか。

○ **全委員：** 異議なし。

○ **牛山部会長：** ありがとうございます。また、こちらにつきましても付け加えるご意見など、全体評価に関わる点や、今後の取組みなどについても小柱ごとにご意見をいただきましたので、これらについて事務局と整理させていただきたいと思えますのでよろしくお願ひいたします。それと、交付金事業につきましても、二次評価につきましても、県による一次評価と同じとしてよろしいでしょうか。

○ **全委員：** 異議なし。

○ **牛山部会長：** ありがとうございます。こちら基本目標４につきましても、先ほどの基本目標２と同様に、事務局とみなさまのご意見を踏まえまして、二次評価（案）をまとめさせていただきたいと思えますが、お任せいただいてよろしいでしょうか。

- **全委員**： 異議なし。
- **牛山部会長**： ありがとうございます。それでは、本日は基本目標の2と4につきまして、ご議論いただきました。そのほか、全体を通じて何かみなさまからご意見などありますでしょうか。
- **林田委員**： 言い忘れたことがございまして、基本目標2のところの「資料4-2」交付金事業の評価シートの12ページについて、29年度のKPI目標値が出ていなくて、「KPI目標値は3年目以降から設定」と書かれてあるのですが、この中で、最終的な一次評価が「地方創生に相当程度効果があった」と記載されています。KPIの数値が無い中での評価ということですが、それは事業概要に記載されているようなところからの評価ということになるのでしょうか。
- **有泉地域政策課長**： そのとおりでございます。昨年度は、地方創生拠点整備交付金を活用してヨットなどを置く場所の整備をしています。整備後に、お客様に停めていただいて保管料をいただくことをKPIにしています。事業としてはヨットなど船の置き場を整備しており、きちんと計画に対して整備を進めたということで、「相当程度効果があった」と一次評価をさせていただいたところです。KPIに対する評価ではございません。
- **林田委員**： 県民の方からご理解いただく際には、少し分かりにくい部分がございますので、そのあたりは説明があるほうが良いかと思えます。また、「地方創生に相当程度効果があった」というよりは、その一段階下の「地方創生に効果があった」に留める方が良いのかもかもしれません。
- **牛山部会長**： 考え方としては、整備が進んでいるということでしょうか。そうであれば、そのことが分かるようにどこかに記載できると良いのではないのでしょうか。「今後の課題」のところでも、少しそのような文言について、KPIは平成29年度については設定していないが、整備事業の具体的な進捗状況から一次評価について判断を行ったが、課題としては記載のようなものがある、というような形で文章を追加するのが良いのではないのでしょうか。確かにKPIの設定が無いにも関わらず「相当程度効果があった」とすると、どうしても思う方もいらっしゃるかと思いますので。
- **有泉地域政策課長**： ご意見ありがとうございます。記載について原局と調整いたします。

3 閉会

- **牛山部会長**： ありがとうございます。ほかにはよろしいでしょうか。たいへんみなさまから活発にご意見をいただきまして、部会の二次評価（案）が確定してまいりました。8月2日に開催されましたもう一つの評価部会、基本目標1と3の意見と集約しまして、座長といたしまして評価報告書を事務局ととりまとめてまいりたいと思います。また、9月の県議会へも報告を予定しております。次回の推進会議ですが、10月下旬から11月上旬ごろを予定しております、最終的にこの2017年度の評価を確定していきたいと考えております。次回もよろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。事務局から何かございますでしょうか。
- **高木地域政策課副課長**： みなさま、本日は活発なご議論をいただきまして、誠にありがとうございました。今、部会長からお話がございましたとおりでございます。次回は推進会議全体での会議となります。現在、10月下旬から11月上旬ということで、日程を固めた上で委員のみなさま方にご案内させていただきたいと存じます。本日の議論を踏まえて2017年度の評価の確定を行います。どうぞよろしく願いいたします。本日は誠にありがとうございました。

○ **牛山部会長**： それでは、以上をもちまして、本日の部会を閉会いたします。どうもありがとうございました。